

OMC News

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

'88.1 No.267 大阪市大淀区長柄東2-1.21-204
☎ (06)357-7281

562.12月

★川畑会長、永眠される

昨年12月24日、川畑会長は肝臓ガンのため遂に帰らぬ人となりました。68才の誕生日をあと数日にひかえての死は、まだ早すぎるし、OMCにとっても大変な痛手で残念でたまりません。死の直前までOMCのことをご心配されていたとの御家族のお話で、残された私たちは、みんなで、しっかりと後を引継いでいかなければと思います。会員の皆様、どうかよろしく願いいたします。

★今年も朝日生命ホールで公開映写会

昨年の公開映写会から企業からの広告をとらず、自主財源で運営することになったため、かなりの赤字が残り、今年の朝日生命ホールでの公開映写会が危ぶまれていましたが、一部の方々のご好意で赤字を一掃、更に今年の公開映写会の目途がつかしました。ご協力いただいた横山、堀池、上総、増田氏をはじめ小倉、有村、前田、合原の各氏にたいし心からお礼申しあげます。有難うございました。

このうえは、立派な作品をつくりOMCの伝統ある公開映写会を大成功させたいものです。そしてこれが地下に眠る故・川畑会長への何よりの供養になると思います。

★新年会で故人をしのぶ

新年会は1月13日、なにわ会館にて15名の会員が参加し予定通り行なわれた。小倉副会長より川畑会長の死亡について経過の報告があり、OMCの今後の発展と会員諸氏のご健康を祈って乾杯の後、なべ料理をつつきながらの懇談に移った。川畑会長の思い出話や追悼映写会の提案など、話題は尽きなかった。

★河口礼志氏、広島へご転勤

河口さんが、広島へご転勤になり、12月例会で退会のご挨拶があった。OMCにとっては淋しいが、広島も8ミリの盛んなところなので、ご活躍を期待したい。

★'88年度の世話役さん

ご苦労ですがよろしく

12月例会で、副会長の2人制と、相談役をおくことを決定し、会長以下副会長、相談役、各担当の世話役を次ぎの通り決定した。

会長：川畑健二／副会長：小倉宝蔵、（1名未決定）／総務：小倉宝蔵／会計：増田栄一／企画：前田茂夫、山形修、岡本至弘／広報：合原一夫、井脇務／月例会：（司会）小倉宝蔵、（映写）有村博、前田茂夫／相談役：横山勇、堀池俊三、上総修一郎（敬称略）

<川畑会長の後任は1月例会で選出。>

★12月例会レポート

何かと気忙しい年の暮の例会だが、お天気もよく会員さんの出足はよかった。「大自然」（カナディアンロック）小倉宝蔵氏、Su.T. 20分。大自然の迫力はさすが。「ふとん太鼓」江村一郎氏、Si.M. 8分。氏らしくアップでダイナミックに描く。「奈良のお寺」有村博氏、Su.T. 10分。<南都七大寺>の残りフィルムの活用だが、画面はきれいでまとまっている。「社の賑い第二部」河口礼志氏、Su.T. 20分。25年毎に行われる祭の貴重な記録。

☆1月例会は第4土曜23日。18時20分開会。

なにわ会館。作品持参で全員集合！
撮影会作品の公開審査。秋の撮影会参加者は作品持参忘れずに。

★小倉新会長で再出発

川畑会長の死去に伴う、後任の新会長の選出が待たれていましたが、去る1月例会の直前に行われた世話人会と、それに続いての例会で、満場一致、小倉宝蔵副会長が新しい会長として選出されました。新会長のもと、会員一同一致協力してOMCの伝統ある灯を守っていきたいと思います。皆さん、よろしくお願いします。なお、副会長は置かず、前号ニュースでお伝えしました世話人で運営していくことになりました。

★追悼映写会決まる

世話人会の発案で、故川畑前会長の追悼映写会を下記の通り行うことが決定されました。

1. 主催：OMC
2. 日時：昭和63年 4月15日（金）16時～
3. 場所：なにわ会館4階（150名収容）
4. 経費：約10万円を目途にOMC会員を中心に募金を行う。
5. 機材：横山さんより映写機、映写幕一式借用する。
5. プログラム：小倉会長、合原世話人により、後日選別作業を行い原案作成。

以上の通りですが、会員の皆さんには、募金へのご協力と動員のためのPRの方を、よろしくお願いします。

★川畑健二作品調査レポート

先日、川畑さん宅を小倉、合原の両名が訪ねて作品リストを拝見しました。息子さんが整理されており、それによれば、ダブル時代の古い作品では昭和33年、毎日新聞8ミリコンクールに入賞した記念作「ボクはスーパー

ボーイ」ほかダブル作品6本。シングル、スーパー時代に入って「ペットのQちゃん」ほか、ほとんど毎年1本のペースで制作して来られた作品20本ばかりがリストアップされていました。映写会上映作品では、昭和47年度作「みち」だけが見当らず残念でした。

◎44年「物語」、◎45年「こっくり長者」、46年「黒のパラード」、47年「みち」、◎48年「おくにさん」、49年「異郷に祈る」、50年「収獲」、51年「能登の印象」、52年「出会い」、53年「陸蒸気サウンドの旅」、54年「脇役に生きる」、◎55年「もうひとつの旅」、56年「山巒に祭囃子が」、◎57年「幸せになるんだよ」、58年「つれもていこら」、59年「真夏の夜のショー」、◎60年「リバーサイド」、61年「遙かなる道」、62年「魅せられて」以上が主要な作品でした。

注、◎印は追悼映写会の候補作品です。

★1月例会レポート

小倉新会長、拍手のうちに目出たく誕生の後、ご挨拶があり、再び大きな拍手が起った。月例作品「躍動」長綱俊昭氏 Su.M 10分、を上映の後、秋の撮影会作品公開審査を行った結果、1位、前田茂夫氏「石塔の賦」と決定。以下入賞作品「石塔寺」森保信氏、「近江路題塔寺」今井羨美氏、「秋のささやき」堀池俊三氏。その他の上映作品「秋のスケッチ」今井羨美氏、「湖のうた」前田茂夫氏。いずれも気軽に撮って来られたにしては、立派な作品であった。

☆2月例会は第4土曜27日、18時20分開会。なにわ会館。作品持参で楽しい集いにどうぞ

1988年2月

大阪ムービーサークル(OMC)

会長 小倉宝蔵

各 会 員 殿

故・川畑健二前会長の追悼映写会ご協力依頼について

厳寒の候、会員の皆様にはますますご健勝で、ご活躍のことお慶び申し上げます。

さて、OMCは皆様方のご協力により、多難な8ミリ界の現状にあって会の運営を維持し、27回に及ぶ「8ミリ映画フェスティバル」の開催を続け、さらに本年も朝日生命ホールでの開催を計画しています。これもひとえに、故・川畑前会長が、ご多忙な日常のなかで、OMCの運営を優先させて、お世話を戴いたお陰です。

昨年の暮、二十四日の突然の訃報はOMCの将来にとって、いや、関西の8ミリ界にとつて、大きな痛手であり痛恨のできごとでした。

私たちOMCは、川畑さんが生前の情熱をかけた作品を映写し、故・前会長の業績をしのぶとともに、川畑さんの意志を継ぎOMCの前進を誓いあいいたいと、下記の通り追悼映写会の開催を決定いたしました。

つきましては、火の車のOMCの会計からは、追悼映写会の諸経費の捻出は困難で、会員の皆様のカンパにたよるほかはありません。追悼映写会の動員にご協力戴くとともに、事情ご賢察のうえ、応分のカンパをお願いいたします。

カンパは、2月又は3月の例会に（できるだけ2月例会で）持参いただくか、3月末までに、増田会計さん宛、ご送金戴くようお願いいたします。

なお、追悼映写会の運営費は、概算十万円（会場費、案内状印刷費、通信費、雑費等）を予定しています。

記

故・川畑健二前会長追悼映写会

会 場 なにわ会館4階

日 時 四月十五日（金） 午後六時開会

早春の候、皆様には、益々ご健勝でご活躍のことと存じます。さて、御承知のように、昨年の十二月二十四日、関西8ミリ映画界の重鎮として、また、大阪ムービーサークル(OMC)の会長としてご活躍をされた、川畑健二さんが他界されました。川畑さんは、多難な8ミリ映画の現状の中で、こよなく8ミリ映画を愛し、8ミリ映画に情熱をそそいでこられました。

川畑さんの訃報は、OMCにとって痛恨の出来事でした。でも、悲しんでばかりもられません。私たちは、川畑さんが生前の情熱をかけた作品を公開映写して、その業績をしのぶとともに、川畑さんの意志を継いでOMCの前進を誓いあいいたい、左記の通り「川畑健二追悼映写会」を開催致します。

多数ご来場賜りますよう、お願い申し上げます。

昭和六十三年三月

川畑健二追悼映写会
主催 大阪ムービーサークル(OMC)

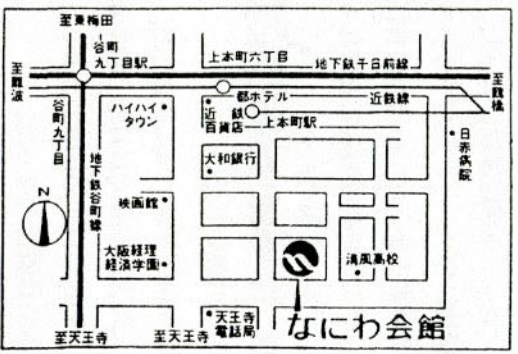
川畑健二追悼映写会次第

日時 昭和六十三年四月十五日(金) 午後六時開会

場所 なにわ会館(4階・金剛)
大阪市天王寺区石ヶ辻町十九番十二号
(☎〇六一七七一―一四四二)

プログラム 司会 浜田彰男

- (1) 出 会 (昭和52年作品)
- (2) 物 語 (昭和44年作品)
- (3) こっくり長者 (昭和45年作品)
- (4) 幸せになるんだよ (昭和57年作品)
- 休憩・ご挨拶・想い出を語る
- (5) ありし日の川畑さん (OMC撮影会より)
- (6) 魅せられて (昭和62年作品)
- (7) おくにさん (昭和48年作品)



★追悼映写会準備すすむ

前号でお知らせした通り、4月15日(金)18時より、なにわ会館で「川畑健二追悼映写会」を行うことになり、準備が着々と進められています。上映作品は次ぎの通り。

1. 出会い(S52年) 2. 物語(S44年) 3. こっくり長者(S45年) 4. 幸せになるんだよ(S57年) 5. ありし日の川畑さん(撮影会より) 6. 魅せられて(S62年) 7. おくにさん(S48年)。なお、野村さんに「川畑さんを偲ぶ」お話をさせていただく予定です。

皆さんには、募金の面で大変協力をいただいています。またの方にはぜひ応分のご厚志をお願いしたいと思います。

★秋の撮影会作品入賞者にトロフィ

優秀賞、前田氏(石塔の賦)、秀作賞は森(保)氏(石塔寺)、今井氏(近江路大塔寺)、堀池氏(秋のささやき)以上。

★吉村氏大阪市視聴覚教材コンテスト入賞

61年フェスティバルで上映された、吉村久雄氏の「平野の祭り」が、映画教材の部で特選。朝日新聞社賞が贈られました。

★OMCニュース創刊ごろのニュース記事

野村さんよりOMCニュースの創刊ごろのコピーをいただきました。稀少価値のあるもので、当時の様子を垣間見る思いがしました。「南ニュース創刊にあたり」と題して故竹本正光さんの挨拶文があり、三号雑誌にならないよう、若手の柴谷さん等に期待する記事や、川畑さんの記名入りの記事もありました。当時は会計や事務の一切を川畑さんがやっておられたようです。撮影会のお知らせでは民話で「総天然色・夕

やけ橋で待ちよれ」野村シナリオ完成!

といった記事もあり、興味しんしんといったところ。ちなみに創刊号は昭和39年7月号とか。それから23年。OMCニュースも、No.269号の多きを数え、わがOMCの歴史の古さを物語っています。

★2月例会レポート

久しぶりの雨で街がしっとりと濡れた日、気温も上って春近かしを思わせる。追悼映写会の打合わせ世話人会に引き続き例会へ移行。あと一名で20名の大台だかと思わせる会員さんの集まりだが、作品の方は今ひとつ盛り上がり欠けた。「夏の詩」長綱俊昭氏、Su M 8分。撮影したのは10年前だが、音を入れて完成したのが昨日とか。当時の小さな子供さんが今は高校生。貴重な家族の記録なのでNGフィルムも捨てないでとっておかれるとよい。「命くれない」香島淳一氏、Su M 4分。映像化には難しい演歌に取り組みられたものだ。共演者がほしかったとの声も。「On the Hdoukyo」合原一夫氏、Si M 13分。10年以上も前のフジの撮影会作品だが、OMCでは初公開。今思えば色マスクとの合成など苦勞した思いでの作品とは作者の弁。「ある恋の物語」有村博氏、Si T 9分。第5回キャノンコン佳作入選作。S45年というから18年前の作品だが、当時の根気よく若さ一杯?の作品。

★春の撮影会5月3~4日「御坊人形」

企画の前田氏よりロケフィルムを混じえて説明あり、久し振りの一泊。楽しみだ。

☆3月例会は第4土曜26日。18時20分開会なにわ会館。撮影会の件もあり乞多数集合

★あらためて故人を偲んだ追悼映写会

4月15日(金)18時より、なにわ会館で行われた「川畑健二追悼映写会」は、盛会裡のうちに無事終了。大任をはたすことができました。これも会員の皆様はじめ故人を偲ぶ大勢の方々の御協力の賜ものと深く感謝いたします。追悼映写会は故人と親しかった浜田さんの司会で始まりましたが、いつもの映写会と違う静寂感のようなものが場内に漂っていました。休憩後の、野村氏の思い出話、御息の秀樹さんのご挨拶では、場内が静まりかえり、あらためて故人の人間性が浮き彫りになったように思えました。また、皆様から戴いた原稿は、冊子「想い出」として発行し、ご来場者全員に記念として配布いたしました。

★カメラショウ雑感

今年も恒例のカメラショウが高島屋で、同じくカメラアクセサリー展がそごうで開かれていたので見にいきましたが、ひと昔前までのカメラショウとは随分変わってきたナと言うのが実感。今年もビデオ関連がかなり出ていましたが、いっそのことビデオショウと銘うって、家電メーカーも一堂に出品されたらどうだろうか、カメラメーカーのビデオだけでは何か物足りなく中途半端だと言う気持ちがしました。最も“底を貸して母屋を取られる”ことになったら、カメラメーカーが困りますか? いずれにしても8ミリエイガの機材は影もなく残念。

★乞御期待の春の一泊撮影会

5月3日、4日のゴールデンウィーク中に行われる春の撮影会は、和歌山県御坊市

で「御坊人形」をつくる人形師をテーマにした撮影になりますが、このところ歌謡映画のような軽い題材が続く各クラブの撮影会のなかにあって、久し振りに重厚な作品に取り組みそうです。多くの方の参加を期待します。申し込みは企画の前田氏まで。

★3月例会レポート

外は春を告げる小雨模様のせいか、例会場への集まりが今ひとつ。作品もなかなか出ない。今月はリバイバルを含めて四本の出品で少々時間をもてあまし気味。その分早く終って二次会をたっぷり楽しむことができた。どっちにしてもやはり例会は楽しくありがたいもの。欠席がちの方、仕事のストレス解消のためにも例会へやってきませんか。さて、追悼映写会の件を小倉会長より報告があり、続いて上映開始。トップバッターは合原一夫氏「余呉の湖」Su.T 12分。数年前のOMC撮影会作品だが、オリジナルフィルムが紛失したのでNGフィルムを再登場させて再びまとめられた作品という。変わった「新作」でNGも取っとかんといかなあというつぶやきも。井脇務氏「別離」Si.M 12分。フジ友の会撮影会作品。川畑さんの最後の演出という記念すべき作品。「雪ふる」江村一郎氏Si.M 4分。寒い日に雪を撮られに行く努力にまず敬意を表したい。「鹿守抄」有村博氏 Si.M 18分。S52年フジコン入賞作品。

☆今月は、会費の納入月です。半期 5,000円。ご協力お願いします。(増田会計より)

☆4月例会は第4土曜23日。18時20分開会。なにわ会館。作品持参で全員集合!

1988年4月15日 川畑健二追悼映写会決算報告書

収入の部

会員の寄付金 (25名、氏名略)	160,000円
20,000円 (1名)、10,000円 (4名)、5,000円 (20名)	
その他の寄付金 (敬称略)	107,500円
50,000円 (川畑登喜江)	
10,000円 (シングル8友の会大阪支部、松田良太郎<京都市> 佐藤正勝<四條畷市>	
5,000円 (関西小型映画連盟、川崎輝夫<奈良市> 猪飼行幸<明石8ミリ映画クラブ>	
3,000円 (守口シネクラブ、串宮英和<富山市>、 佐原説二<大和郡山市>	
3,500円 (玄光社、但し花代の残金)	

合 計 267,500円

その他 スタンド・花 (玄光社小型映画友の会、東映大秦映画村映像サロン)
<収支別計算>

支出の部

会 場 費	46,310円
印 刷 費	87,000円
案内状 (1,100枚)、封筒 (800枚)	35,500円
「思い出」刷り、製本代 (200部)	51,500円
通 信 費	41,550円
案内状、礼状等発送切手代	
交 通 費	8,450円
司会者車代 (5,000円)	
連絡、運搬用地下鉄、タクシー代 (3,450円)	
事 務 費	3,200円
芳名録2冊他 (1,700円)、コピー代 (1,500円)	

合 計 186,510円

差引残高

80,990円

上記残高は、通常会計へ繰り入れします。

以上の通り相違ありません。

1988年4月23日

大阪ムービーサークル会長 小 倉 宝 蔵
会 計 増 田 栄 一

OMC News

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

大阪市大淀区长柄東2-1.21-204

'88.5 No.271

☎ (06)357-7281

★春の撮影会 雨で散々

恒例のOMC春の撮影会は、ゴールデンウィークの5月3～4日を予定し、前田茂夫氏による、御坊人形の田中さん一家を追ったヒューマンドキュメンタリー映画の制作を企画しましたが、田中さんの事情でやむなく見送ることになりました。そこで急拠「ぼちぼち行こら」（仮題）という紀行映画に変更して実施しました。アベノ橋を当日8時半に出発して、堺市内に入るあたりから大渋滞に巻き込まれ、紀の川パーキングに着いたのが12時。南に行くにつれてまた渋滞。やっと目的地の湯浅に2時到着。予定より遅れること3時間。そして追い討ちをかけるように雨がポツリポツリ。それでも4時までには醤油蔵をはじめ、職人蔵の内部の撮影を完了しました。「稲むらの火」の舞台や、興国寺の撮影予定は雨のため切り上げて、アメリカ村の民宿へ。

もう一つの目的、親睦会のほうは、親睦会だけに参加の会員も雨の中をかけつけ、民宿心づくしの生のよい魚料理で大いに盛り上がりました。翌日も雨。アメリカ村83歳の老婦人にカナダの滞在経験を語ってもらい、室内撮影を終了しました。それでも小雨の中を漁村風景を撮影する会員もあり、雨が恨めしい2日間でありました。

★再度日の岬へ

撮影済みのフィルムは無駄にしたくないと、撮影会で撮り残した興国寺、アメリカ村、日の岬などに再挑戦。6月29日（日）6時30分出発。日帰りの強行スケジュールですが、参加希望者は28日の例会に出席を。

★4月例会レポート

小倉会長より追悼映写会の会計報告があった。会員の寄付金16万円（25名）、ご遺族や他のクラブの方々等から107,500円。支出は、会場費、印刷費、通信費等一切で186,510円。差引80,990円の残高があり、通常会計へ繰り入れることで承認された。有難うございました。また、ご遺族から皆さんにくれぐれも宜しくとの報告があり、続いて上映開始。「湖愁」長綱俊昭氏。S51年の琵琶湖撮影会作品、氏なりの解釈で編集をしておされたもの。ストーリーの展開に無理があったがムード映画として楽しめた。「ノスタルジア」江村一郎氏。現代のJRの姿から回想で国鉄のSLに入ったあたりは秀逸。ラストの処理は色々な意見に別れた。「筍と共に」前田茂夫氏。これもS52年の撮影会作品。宅地ブームの波におされて缶詰工場を手放すか否かという社会性あるテーマと熱演に、始めてみる会員の中から「この話はその後どうなったか」という質問もあったほど。「四季の詩」秦峰一氏。蝶を主体に昆虫を織り込んで四季の風景をまとめあげた作品。氏の撮影技術と編集で美しい四季が見事に捉えられていた。

「たのしい秋の一日」井原康亘氏。家族で故郷を訪ね、美しい自然の中で田舎の生活を楽しむ作品。SEのほしい作品であった。

★井原康亘氏／堺市若松台3-27-12。勝又麻須子さん／東大阪市末広町7-16。が入会されました。よろしくお祈いします。

☆5月例会は第4土曜28日、18時20分開会。なにわ会館。ラッシュ、旧作歓迎。乞持参。

★撮影会再挑戦は“本日晴天なり”

5月3～4日の撮影会は雨で思うように撮れなかったため、物足りない面々で再度5月29日(月)に日の岬など現地へおもむき、休日には珍しい“晴天”のもと、思う存分撮りまくったとのこと。8ミリが好きになればこそその話題だが、さぞや立派な作品が出来上がるに違いないと期待するところ大なり。もっとも前回の雨天のフィルムと今回のピーカンのフィルムとをどう接ぐのか見ものだが、或いは前回の公式撮影会のフィルムはすべてお蔵入り?

★5月例会レポート

(今月は広報の合原氏が欠席のため、井脇氏に記録を依頼した。)

5月も末になると日が浅くなり、6時過ぎといっても昼間のように明るいせいもあってか、例会開始時刻になっても10名ほどしか集まらず、心配しながらも30分遅れで始めたが、7時すぎになってようやく人が集まり、いつもの賑やかさになった。作品も6本が出てまずまずの例会となった。

「遙かなる国メキシコ」Su. T 15分、長網俊昭氏。語学研修でアメリカ滞在中の休日、3日間メキシコへいかれて撮影された、農村や町、公園など珍しい風景もあって楽しく拝見。BGMとナレーションが同じレベルで録音されているので、聞きづらくて損された。「香取神宮・神幸祭」Su. T 17分、堀池俊三氏。12年に一度という珍しい祭風景。なかなか盛大な祭で、長い行列がカラフルで8ミリの。よく撮影されているが、

もっとアップが欲しかった。ラストの扱いがやや物足らなかったのが少々残念。

「エキゾチック神戸」Si. M 14分、井脇務氏。3年前のシングル8友の会全国大会のときの作品。神戸のポートピアの画面が今は懐かしい。「STORY LOVE IMAGE」野村公威氏、Su. M 4分。野村さんならではのアニメの世界。4分の作品に絵を850枚、完成に6ヶ月もかかったとか。凡人にはタメ息の出る話である。カメラも1コマ撮りのため、よく故障するとかで、この作品がアニメの最後の作品になるとかならぬとか。そういわずに“アニメの野村さん”という看板は今後も掲げてほしいものである。「煙の挽歌」Su. T 17分、有村博氏。キャノンコングランプリをとった往年の名作。早いもので10年になるとか。あの炭焼きのおじいさんも亡くなられたと聞き、一同しんみり。最後の作品は、花岡汪氏の「台湾の旅」Su. T 18分、今年3月にツアーで台北3日間のバスの旅を楽しまれた。台湾経済の活況ぶりがフィルムを通じて伝わってくる。手持ち撮影ながらも画面も安定しているし、BGMやナレーションもよかった。

以上で例会は終わり、恒例の二次会へと席を移し、5月例会をしめくくった。

★公開映写会用作品の方もよろしく。作品が集まらなくては地下の川畑さんに申し訳ない。頑張って一作をモノにしましょう。

☆6月例会は第4土曜25日、18時20分開会。なにわ会館。旧作新作ラッシュ皆大歓迎

あなたも挑戦してみませんか

新しい8ミリ映画機材の製造が中止されて数年がたち、ビデオ、ビデオといわれて、全国的なコンテストも減少し、だんだんと衰退をたどる方向の8ミリ映画ですが、本年も次のようなコンテストの企画が発表されました。挑戦してみませんか。

具体的な募集要項、応募用紙はOMC事務局まで。

第8回ヒロシマ国際アマチュア映画祭

主催/ヒロシマ国際アマチュア映画祭実行委員会。中国放送。日本ユネスコ協会連盟等。
題材/人間賛歌、自然と人間のふれ合いなど広く“平和への営みと生きる尊さ”を表すもの。作品形式は自由。30分以内の作品で、1983年以後に制作されたもの。
申込の方法/申込書を1989年1月31までに事務局に送付。作品は2月28日までに。
賞の種類/ヒロシマ・グランプリ1点(賞状、ブロンズ像、50万円の旅行券)。中国放送社長賞1点(賞状、ブロンズ像、25万円の旅行券)。優秀賞11点(賞状、ブロンズ像)

第4回京都映像コンテスト

主催/東映太秦映画村
題材/テーマ部門: 京都を対象にしたもの。京都の持つさまざまな表情と、そこに生きる人々との関わりなど。3~10分の作品。
フリー部門: テーマは自由。3~10分の作品。
応募の方法/郵送または直接持参。昭和63年7月1日~9月30日の間に提出。
賞の種類/テーマ部門1点(トロフィー、50万円と副賞)、佳作2点(楯、10万円と副賞)
フリー部門1点(トロフィー、30万円と副賞)、佳作2点(楯、10万円と副賞)

日本8ミリ映画新人賞 第5回選出コンテスト

主催/ぐるーぷ・こん
審査基準/自由な「アマチュア精神」を理念として、その作家の将来性、独創性を重視する。これまでの全国及び国際規模コンクールの上位入賞者を除いたアマチュア制作者。
応募の方法/アマチュア8ミリクラブの推薦する作品と自己応募の二方式。
作品内容・テーマは自由。映写時間最長20分。音声はマグネ方式に限る。
昭和63年7月1日~9月30日の間に返送料(1000円)を添えて提出。
賞の種類/1名~2名の新人を選ぶ(賞金30万円及びブロンズ像)。次点数点(2万円)

★つゆ明け宣言で暑さ本番

梅雨の季節が過ぎる頃が一番むし暑く、しのぎ難い日々だが、今夜も熱帯夜になるかも。皆さん如何お過ごしですか。

こういう暑いときの例会は出かけるのがしんどいのか、日が高いのでその気にならないのか、集まりが悪い傾向にあるが、モノは考えよう、例会場は冷房も効いているし、二次会では仲間とぐーっと一杯、という楽しみ方もある。避暑がてらにぜひ例会へ出席していただき盛り上げて行って欲しいものである。6月例会の集まり13名はちと淋しい。今月は頼みませ。

★6月例会レポート

前日の大雨に続き、例会日の6月28日も今にも降り出しそうな空模様。そのせいか定刻になっても9名しか集まらず、時間を気にしつつ上映開始。それでもポチポチ増えて何とかかっこうがついた。出品作品の方はリバイバルも含め6本が出てまずは例会のプログラムを組むことができた。

上映作品「ぼくの絵日記」井原康巨氏、Su. M. 6分。小学生の男の子二人が遊園地へ遊びに行った、という話の組み立てだが、子供にカメラを意識させないで自然な表情を撮るには、としばし話題が集中。もう中学生になっていて出演したがないとか。「立山の秋」花岡壬氏、Su. I. 9分。良い天気に恵まれ色よし景色よくの結構な作品で、公開映写会にぜひという声も。もう少し手を入れられたら迫力ある山のぼり映画になろう。ぜひモノにして出品してほしい。

「薫風」江村一郎氏、Si. M. 5分。いつもの江村作品とは少し異質だが楽しい作品である。こいのぼりがタイトルにふさわしくてよかった。子どものバックが室内なのが気になるという声も。

リバイバルコーナー「羽衣女房」増田栄一氏、Su. I. 15分。S43年撮影というから20年振りに陽の目を見た作品。フジのクラブも以前はこういう時代劇をよくやっていたなあーと感慨もひとしお。「繁栄の報酬」小倉宝蔵氏、Si. I. 17分。S46年製作。若さにまかせて？精力的に作られた公害告発映画。その効果が出たか最近は当時より少しはマシな環境になったが…。「翼」有村博氏、Su. M. 20分。往年の名作でキャンコン入賞作品。主人公はその後鳴門大橋開橋の日にアクロバット飛行で壮絶な死をとげられたとかで一同しんみり。

さて、ここで小倉会長より第5回ヒロシマコン、第4回京都映像コン、日本8ミリ映画新人賞第5回選出コンへ、会員諸氏の応募を提唱された。秋の公開映写会作品の製作もかね、ひとつ頑張ってつくってみては如何？応募手続き等は会長までどうぞ。

★公開映写会作品、大丈夫ですか？

ほんまにホンマ、頼みませ、あなたが頼り、8月例会までにはプログラムの見通しが必要。新人の方とくに歓迎します。

★関小連映写会作品は有村、前田の両氏に出品依頼しました。9月北市民教養ルーム。☆7月例会は23日土曜、18時20分開会。なにわ会館。ラッシュ新作旧作歓迎。乞持参。

★書中お見舞い申し上げます。

戻り梅雨とかでお天気もモタモタしていましたが、さすがに8月の声を聞くと暑さも厳しいですね。皆さん暑さに負けずお元氣のことと思います。夏こそ8ミリのネタも多い筈だとカメラかついで奮闘中の方もおられるのでは？ そうした話が聞ける例会が待ち遠しい思いです。

★テレコの部品が無い……

例会で使っているソニーのテープレコーダーは性能の優秀さで定評だが、小倉会長の調べては、もうメーカーに部品在庫がないとのこと。故障して部品の交換が必要になったら、もうお手上げになるらしい。皆さん、お手持ちのテレコは大事に使って下さい。もう、最後の機材ですゾ。

★7月例会レポート

戻り梅雨終末期の7月23日、降ったり止んだりの天気を気にしながらの7月例会、集まりが心配されたが、久方ぶりの吉村さんを含め11名の参加者を見、フィルムも5本が上映されて何とか例会らしくなった。

有村さんや前田さん、花岡さん、岡本さんといったご常連の姿が見えないとやはり淋しいものだ。二次会の氣勢も上らぬ、というわけ。もっとも公開映写会用作品撮影のため、旅行中という方もあり、その成果のほども期待されるのだが。

上映作品「水郷の面影」江村一郎氏、Si M 7分。地元東大阪市で撮った“水郷”とのことだが、都会の中にまだ自然が残っている、といった対比で見せた方がよかった

のではという意見あり。その他いろいろの意見が出てしばし賑やかだった。「三浦三崎」今井羨美氏、Su.T. 15分。マグロの市場風景と白秋の城ヶ島風景との二部から構成、熱心に撮って来られた努力の跡がみられるが、むしろ二本に分けたらどうかとの声あり。公開映写会用に再構成されたら良い作品になろう。「とんぼ仲間」上総修一郎氏、Su.T. 20分。主人公のお医者様は先日亡くなられたとかで追悼上映となった。作者の超努力作。S60年公開映写会上映作品。「大台ヶ原紀行」合原一夫氏、Si.M.9.5分。オリジナルの作品を紛失したので、NGフィルムをとり出して再度作品に仕上げたという氏ならではの古くて新しい作品。「編集後の残りフィルムも捨てずにとっておくと、日の目を見るときもあるよ」と作者、NGフィルム保存効用論をひとくさり。

「卒業式のころ」横山勇氏、Su.M. 18分。横山氏往年の名作で、今拝見しても立派な作品である。若かりし頃？の氏の8ミリにかけける情熱が伝わってくるような新たな感動が走った。

★小倉会長、南米ペルーへ撮影の旅

公開映写会用作品を目ざし、地球の裏側へ行って撮影してくるといふ、何ともはや壮大なる？撮影プランである。どうかまだ通院中の体に注意されて元気で行って来られることをお祈りするのみ…。(合原)

☆8月例会は27日第四土曜。18時20分開会なにかわ館。春の撮影会作品公開審査、参加者は乞御出品。例会作品も是非御持参を

★初秋まじか

今年の夏は雨ばかりだったり、熱帯夜が続いたり、けったいな夏でしたがこのところ朝夕めっきり涼しさが増してきました。

皆さん、お元気で暑さを乗り切られたものと存じます。また公開映写会用作品仕上げにたけなわといった方も多いかと思えます。その作品も9名の方がエントリーされてプログラムの方も着々準備中です。

★公開映写会発表作品決まる。

城ガ島旅情・今井羨美/立山・花岡汪/白川郷・増田栄一/12年ごとの祭・堀池俊三/ぼちぼち行こら・前田茂夫/車のない街・上総修一郎/尾瀬雨のころ・有村博/撮影紀行始末記・合原一夫/クスコの谷・小倉宝蔵。(敬称略)

★公開映写会10月21日(金)

盛大な映写会をめざし会員諸氏による動員の方をよろしく願います。地下の川畑さんを安心させるためにも成功させたいと思います。

★柴辻氏をゲストに迎えた8月例会。

ビクター撮影会の帰りに有村氏の誘いでひょっこりフジの世話役柴辻英一氏が姿を見せられ合原氏より紹介、拍手で歓迎された。今後もゲスト歓迎。どうぞお誘いを。

★8月例会レポート

今月の出席は久方振りに20名の大台に乗り、撮影会作品公開審査もあって、熱気溢れる例会となった。

一般作品上映「チームカラーは紫、我等L団」長綱俊昭氏、Su. 同録、17分10秒。

勤務先の高校での体育祭の準備の様子を描いたもので、どうまとめたらよいか意見を聞きたいと持参された。いろいろの意見が出たがねらいをどうするかをはっきりさせたいとの助言が多かった。「WATER'S PATH」有村博氏、Su.M 5分25秒。テレビの前に万華鏡を置き8ミリで撮影された。テレビ画面の撮影だけに色彩がいまひとつ。ただ何事にも挑戦される姿勢には脱帽。

撮影会作品公開審査。「ぼちぼち行こら」江村一郎氏、Si.M 10分10秒。ナレーションの量が多いのでいささか消化不良か。苦勞して撮り直しに行かれたとか。「ぼちぼち行こら」今井羨美氏、Su.T 14分 8秒。相当な撮り直し、撮り足して、何回も足をはこぼれた努力の跡あり。投票2位に選ばれ入賞をはたした。「撮影紀行後始末記」合原一夫氏、Si.T 12分43秒。雨にたたられて思うように撮れなかったので作品化をあきらめていたところ友よりビデオが贈られ、そこでアイデアを考えついたという変わり種作品。投票1位。「ぼちぼち行こら」岡本至弘氏、Su.T 16分。じっくりまとめられたおり苦勞の跡がみられた。参考作品「ぼちぼち行こら」前田茂夫氏、Su.T 16分。さすがにうまくまとめられている。

★関小連合同映写会10月 6日(木) 6時~富士大阪支社6階ホールにて。乞御来場。

☆9月例会は24日(土)、18時20分開会。なにわ会館、公開映写会の出品作品はできるだけお持ち下さい。一般作品もご持参を。
☆10月例会は公開映写会のため休会します

OMC News

発行 大阪ムービーサークル事務局 小倉宝蔵

大阪市淀川区長柄東2-1. 21-204

'88. 10. 11 No. 276

☎ (06)357-7281

★公開映写会無事終了。ご協力感謝します。

10月21日(金)大阪では数少なくなりました朝日生命ホールでの公開映写会は、心配していましたが観客動員もますますで、成功裡に無事終了することができました。皆さんのご協力に感謝するとともに、来年のOMC結成50周年へ向けての、あらたな出発点として頑張っていきたいと思えます。そして、8ミリ映像の世界をかたくなに守り通してきた、OMCの永年の伝統を今後とも守り育てていきたいと思えます。

★突然の転勤、合原一夫氏。(ご挨拶)

—でも月例会には出席します—

10月初旬、突然に本社(東京)転勤を命ぜられて、公開映写会も出席できないまま、10月19日上京、新任地に着任しました。

OMCの皆様にはいろいろとお世話になり、また楽しい思い出もたくさん作らせていただきました。有難うございました。なお、残り少ない会社勤め(2~3年か)ですので単身赴任でまいり、第4土曜日は帰宅する予定であります。月例会には、東京の映像界の話なども持ち帰り、できるだけ出席したいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

単身赴任先住所：〒113 東京都文京区本駒込3-40-11 ☎ 03-821-1975 (呼)

(世話役として残っていただく予定です)

★9月例会レポート

ソオルオリンピックたけなわの9月24日の例会日は、重苦しい病床の天皇報道と、メダルに手の届かぬ日本勢の成績をなげく

ニュースの入り混じった日であった。そのせいでもあるまいが会員さんの出足も今ひとつだったが、ぼちぼち増えて15名を越えることができた。

上映作品：「チームカラーは紫、我らL団」長瀬俊昭氏、Su.Mg. 19分。先月拝見したときよりも数段よくなっているが、狙いをタイトルに合わせて絞ればもっとよかった。「万灯会」森保信氏、Si.Mg. 6分50秒。特種フィルターを使ったりして苦労されているが、記録か映像か中途半端になったのは惜しい。「白川郷」増田栄一氏、Su. 30分。以前に撮られた白川郷の祭りを中心に丹念に追った粗編集作品。良い素材なので完成し、公開映写会の発表が期待される。

「12年ごとの祭」堀池俊三氏、Su.T. 13分。5月例会で上映した「香取神宮・神幸祭」を再構成され、ご自分も登場して“12年ごと”のイベントと人生を結びつけた新作品とされた。公開映写会発表作品。「尾瀬雨の頃」有村博氏、Su.T. 10分。雨の尾瀬、しっとりとして詩情がただよう。雨でもタダでは転ばぬ氏の面目躍如たるものが感ぜられる。公開映写会発表作品。「昴」横山勇氏、Su.T. 4分30秒。銀の会既発表作品の歌謡映画だが、北海道の景観が素晴らしい。

★春の撮影会作品にトロフィ授与：優秀賞に合原、今井氏。秀作賞に岡本、江村氏。

☆11月例会は第4土曜26日、18時20分開会。なにわ会館。乞作品持参。

☆12月例会は、第3土曜17日に変更します。

*今月は会費納入月です。お願いします。

1988.12

★新年度の世話役、分担決まる

公開映写会のため、10月例会はお休みをいただき、新年度は11月例会よりスタートした。例会前のひととき、世話役に集ってもらい、次のような役割分担が決められた。小倉会長留任は言わずもがなで、ただ“新”がとれたただけである。相談役は昨年同様、横山、堀池、上総の三氏。総務は小倉会長が兼務。会計増田氏と広報合原氏は留任。問題の企画は、前田氏に替って有村氏にお願いすることになり、岡本、花岡両氏が有村氏をサポートすることになった。月例会の進行(司会)はムードを変えて有村氏に、映写は前田、岡本、今井の各氏。以上、よろしく願います。

★'88年度、年度賞決まる

今年はグランプリの該当作品がなく(グランプリ2度以上の受賞者作品を除く)会長賞に「車のない街」上総作品と「12年ごとの祭」堀池作品の2本が、OMC賞には「城島島旅情」今井作品、「立山」花岡作品の2本が選ばれました。おめでとうございます。11月例会でトロフィ授与。

★新入会者を拍手で歓迎

先日の公開映写会でエルモクラブ会員の中西康雄氏が入会、11月例会より早速作品持参で参加され、拍手で歓迎を受けられた。

住所：〒575 四條畷市清滝中町14-11

なお、辻村氏がゲストとして来場されたが、エルモクラブが2月解散ということで、当クラブへの参加者が何人か見込まれる。OMCにとってはうれしいことだが、しか

し一つの大クラブが消えるということはやはり淋しいものである。この上はOMCが残るクラブとして益々しっかりと8ミリの灯を守り育てていかなければと思う。

★11月例会レポート

定刻より20分ほど遅らせても、どうしたわけか会員さんの集まりが悪く、そろそろ始めようかということで小倉会長の挨拶が始まった。つい先刻決めた役割分担の発表に引続き、早速、有村氏によるソフトムードの進行で作品が上映された。今月は新作旧作含めて6本が出品され、時間一杯の例会となった。辻村氏より戴いたお菓子とお茶で、なごやかな雰囲気作品の終るたびに活発な声がとびかった。「ジャズダンス」中西康雄氏、Su. 同録11分。露出とピントが難しい舞台撮影に初挑戦された。娘さんが出演されたので撮られたが、舞台の前に娘さんの紹介がほしかった。「車窓から」江村一郎氏、Si. Mg. 4分。批評が難しいと考え込む人が多かった。「北八ヶ岳」花岡汪氏、Su. Mg. 13分。会社の同僚と行かれたときの記録。山の映画を撮るのは大変だろうと思う。「津軽」増田栄一氏、Su. I. 17分。10年前の公開映写会の作品だが、なかなかの大作。「父の便り」合原一夫氏、Si Mg. 11分。天六・FECクラブの撮影会用に脚本をかいて制作された氏の新作。「北海道の旅」有村博氏、Su. I. 20分。S56年度作品。思い出の旅の記録、結構でした。

☆12月例会は第3土曜17日。お間違えなきよう願います。於なにわ会館 6時20分開会